

線虫で自動がん検査

日立、装置を開発



線虫=日立
製作所提供

がんのにおいを好む線虫の特性を利用し、自動でがんを検査できる装置を開発したと、日立製作所が18日、発表した。九州大学発のバイオベンチャー「HIROTSUBIOサイエンス」（広津崇亮社長）と共同研究開発契約を結び、2020年までの実用化をめざす。

検査では、体長約1ミリの線虫50〜100匹を専用の容器の中央に入れ、隅に人の尿を垂らす。しばらく経つとがん患者の尿には近寄り、健康な人の尿からは遠ざかるという。

15年に論文発表した広津社長の研究では、早期がん患者の尿にも反応した。従来の検査では1人の検査員が1日に3〜5人分しか判定できなかったことから、新技術でより多くの人を検査を受けられるようになる」と期待される。線虫は飼育しやすく費用も安く済むため、実用化すれば数千円で検査が受けられるという。

日立の久野範人・主任研究員は「共同研究で得た情報によって新しいビジネスチャンスが生まれると考えている」と狙いを話した。

（村井七緒子）



線虫によるがん検査を自動化した装置＝18日、東京都内